

令和7年第6回鹿角市議会定例会 一般質問

□質問順位及び質問所要時間

9月 9日（火）午前10時～

- | | | | |
|---|------|----|-------|
| 1 | 佐藤大介 | 議員 | (30分) |
| 2 | 湯瀬弘充 | 議員 | (30分) |
| 3 | 保田直美 | 議員 | (30分) |
| 4 | 館花一仁 | 議員 | (60分) |

9月10日（水）午前10時～

- | | | | |
|---|-------|----|-------|
| 5 | 奈良明日香 | 議員 | (30分) |
| 6 | 安保真希 | 議員 | (30分) |
| 7 | 赤坂 勲 | 議員 | (30分) |
| 8 | 松村 託磨 | 議員 | (30分) |

□質問時間割当表

10:00	10:30	11:00	11:10	11:40	13:00	14:00
9月9日 (火)	佐藤大介 (30分)	湯瀬弘充 (30分)	休憩 10分間	保田直美 (30分)	休 憩	館花一仁 (60分)

10:00	10:30	11:00	11:10	11:40	12:10
9月10日 (水)	奈良明日香 (30分)	安保真希 (30分)	休憩 10分間	赤坂 勲 (30分)	松村託磨 (30分)

令和 7 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

No.1					
順位	1	質問者	佐藤 大介	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 熊による人身被害防止対策について (1) 緊急銃猟制度の本市の現状、課題及び運用方針について				① 本年 9 月より開始した緊急銃猟制度により、自治体の判断により実施可能となっている。本市では他市町村に先駆けて「ツキノワグマ市街地等出没対応マニュアル」を策定し、出没対策に備えてきているが、これまでの市街地・住宅地での出没対応件数と、対応の現状及び課題と考えている点について伺う。 ② 緊急銃猟を実施せざるを得ないケースとは、具体的にどういったものが想定されているのか。また、安全確保の視点を中心に、緊急銃猟の実施を具体的にどのように想定されているか伺う。	
2 廃棄物の資源化・リサイクルの推進について				① 先日、秋田県美郷町と民間航空会社が連携協定を締結し、各家庭からの廃食油の回収を進め、持続可能な航空燃料（S A F）にリサイクルする「すてる油で空を飛ばうプロジェクト」が開始したという報道があった。 本市においても、廃食油を回収し、バイオディーゼル燃料（B D F）としてリサイクルする取り組みをしていたと記憶しているが、本市でのこれまでの廃食油リサイクルの取り組みについて、また、当局が感じている課題、今後の方針について伺う。 ② 政府は令和 5 年に国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会を設立し、国内資源の肥料利用拡大に向けて取り組みを始めている。生ごみの堆肥化や、生ごみを家畜の餌として飼料化し、資源として利用できれば、輸入量の減少のほか、燃やせるごみの水分量減少から焼却炉の負荷軽減につながるのではないかと考える。 本市でのこれまでの生ごみリサイクルの取り組みの現状、また、当局が感じている課題、今後の方針について伺う。	

令和7年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	1	質問者	佐藤 大介	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3 墓に関する市行政の対応について					
(1) 墓に対する考え方の多様化及び管理者不在の墓の現状について				① 本市における海洋散骨や山林散骨などの自然葬や、改葬許可、管理者不在の墓について、市が把握している現状を伺う。	
(2) 身寄りのない方などの弔いに対する市行政の対応の現状、課題及び方針について				① 市が合葬墓を設置することも含め、身寄りのない方などの弔いに対する市行政の対応の現状、また、当局が考える課題及び方針について伺う。	

令和 7 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	2	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	災害時の対応について (1) 交通の確保について		① 8 月 20 日に発生した豪雨災害により、J R 花輪線の鹿角花輪駅から大館駅間が 9 月下旬（予定）まで運休となり、大館地区や十和田南駅から鹿角高校へ通う学生らの交通の便が途絶え保護者も困惑していた。今回は 9 月 1 日から代行バスによる対応が始まったが、運休後すぐに代行バスなどの手配ができないことや、始業に合った大館へ向かう路線バスがないことから、緊急時すぐに代行バスなどの対応ができるよう、対策方法をあらかじめ J R や秋北バスと協議し、緊急時マニュアル作成などの対策をできないものか考えを伺う。 また、併せて、市有バスでの代行輸送などについても考えを伺う。		
2	利用の少ない施設の利活用について (1) 大湯温泉総合振興プラザの利活用について		① 大湯温泉総合振興プラザの 2 階では「こけし館」として展示が行われているが、年間の来館者数を伺う。また、来館者が少ない場合、展示内容の刷新や有料化の検討など、地域住民及び観光客の誘致に向けた利活用が必要と考える。現状では一部が未活用となっており、維持費の負担も踏まえ、今後の方針について考えを伺う。		
3	観光資源と地域資源の再生について (1) 宿泊税の導入について		① 行政視察で伺った松江市では、令和 7 年 12 月より宿泊税を導入し、年間約 3 億円の税収を観光資源の維持・整備や P R に活用する予定であることを学んだ。鹿角市の令和 6 年度年間宿泊者数は約 20 万人であり、1 人 200 円の宿泊税を導入すれば、単純計算で約 4,000 万円の財源が確保できる。決して小さい額ではなく、観光政策の持続可能性を高めるために十分な規模だと考える。市として今後、宿泊税を含む新しい観光財源の確保について、どのように検討しているのか考えを伺う。		
	(2) 財源の規模と活用可能性について		① 市として、仮に宿泊税を導入した場合の新たに得られる財源の規模をどう評価し、具体的にどの分野に重点的に活用すべきと考えるか伺う。		

令和7年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	2	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
4	(3) 大湯地区における共同浴場の老朽化と維持方針について		① 大湯地区にある共同浴場は近年老朽化により休業などが目立ち、建物や設備の修繕が必要となってきた。住民にとっては「日常生活のインフラ」であり、観光客にとっては「鹿角の温泉文化」を体験できる場所でもある。こうした施設が失われていくことは、地域文化の消失であると同時に観光力の低下につながる。 市として、共同浴場の老朽化にどう向き合い、どのような維持・再生の方針を持っているのか伺う。		
	(4) 温泉資源の位置づけについて		① 共同浴場は、単なる「住民の生活施設」ではない。観光客にとっては「鹿角ならではの温泉文化」を体験できる魅力であり、とても希少な観光資源である。さらには、地域コミュニティの絆を育む役割も果たしている。 つまり、共同浴場は「福祉政策」と「観光政策」をつなぐ、二重の価値を持つ存在と考える。これを守ることは、市民の暮らしを守るだけでなく、鹿角の観光ブランドを高めることにもつながる。 市として、共同浴場を観光政策と福祉政策の両面から再評価し、文化資源として次世代に引き継ぐ方針を明確にできないか。また、こうした浴場を「文化財的価値」と認め、保存対象にする仕組みは検討できないか、併せて考えを伺う。		
	建設業の持続可能性について		① 市内の建設業界では担い手不足や技能者の高齢化が進み、資材価格の高騰も重なり、地域インフラの維持や災害対応力の確保に不安が広がっている。こうした状況の中で、公共工事の発注制度の工夫、若者へのキャリア教育やインターンシップなどによる人材育成の支援、さらに行政と業界の意見交換の場の整備が求められている。 市として、こうした課題に今後どのように取り組んでいくか総合的な考えを伺う。		

令和 7 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

No.1					
順位	3	質問者	保田 直美	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 鹿角市における風力発電設備設置について (1) 自然災害のリスクについて				① 風力発電所の予定地の東側の山脈は米代川源流部であると同時に福士川源流部でもある。福士川の上流部は山々の荒廃した森林のため、大雨による洪水により流出量が多くなることから、近年、治水事業が行われた。このことから山域の多くは土石流出の保安林の指定とともに水源かん養保安林の指定がなされている。従って予定地である青垣山の森林機能としては水土保持を重視する山々であり、土砂流出防備保安林に指定されている。 また、この予定地は東日本最大の活断層である花輪東断層帯であり、南北 19 キロメートルに渡り、山体自体が極めて脆弱で、一般的な土木事業を行うことが難しい地域である。 この土砂流出防備保安林は農林水産大臣指定の保安林であり、その指定には地形・地質的検討、災害歴も考慮されている。 今回の風力発電は 1 基約 180 メートルもの巨大な風力発電所であり、この風力塔が転倒しないために地下に 1 基当たり約 800 トンのコンクリートを入れると聞いている。20 基だと膨大な量のコンクリートの圧力で旧花輪鉦山の坑道が崩壊する恐れがあるのではないかと危惧している。 また、風力発電設備設置のための地盤整備は、道路の拡幅工事などにより青垣山が削られ、土石流出防備及び水源かん養の点から、大きな影響を及ぼすと心配されるが、市はどのように考えるか、大規模な工事による地滑りや土砂崩れといった自然災害のリスクに対する評価なども含めた上で、市の見解を伺う。	
(2) 自然環境に与える影響について				① 風力発電設備設置に伴う森林の伐採工事などの土地改良により、動植物の生息・生育環境が消滅したり分断されたりする可能性がある。また、回転するブレードに野鳥類が衝突するバードストライクが発生し、野鳥類の死傷につながることもあり、生態系への影響が懸念される。 このような様々な動植物の生態系への影響について、自然環境保全の観点から市はどのような考えか伺う。	

令和7年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	3	質問者	保田 直美	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(3) 地域経済及び雇用効果、代替案について				① 風力発電は再生可能エネルギーとして期待される一方で、デメリットも存在する。その一つに発電量の不安定さがある。風の力に依存するため、風が弱い時は発電量が減少し、強すぎると安全のため停止する必要がある、安定した電力供給が難しいという課題がある。 また、屋外に設置されているため定期的なメンテナンスが不可欠である。ブレードや機械部分の修理にコストがかかる上、落雷や台風などの自然災害により風車が破損する恐れがあり、これにより発電停止による経済的損失や復旧費用が発生する可能性がある。 雇用効果については、風力発電は建設時やメンテナンス時の雇用創出は期待されるものの、恒常的な雇用が限られているとの指摘がある。 そこで、代替案として、自然災害のリスクのない地域を選定した上で鹿角市が持つ豊富な地熱資源を活用したさらなる地熱発電の開発を提言する。地熱発電は雇用創出・税収増加・発電後の熱利用による多岐にわたる地域産業の活性化という点で、多様な経済効果が期待できる。24 時間稼働し、安定的で予測可能な地熱エネルギーを利用することでエネルギーコストの変動リスクを抑え、経済活動の安定に寄与する。地熱資源の探査・開発から発電所の建設、そして運転・維持管理に至るまで長期にわたる雇用が創出される。 (株)日本エネルギー機構の分析によると大分県の地熱発電所では、建設段階で約 200 人の新規雇用が生まれ、運営開始後も地元住民が多く雇用され地域経済の安定に寄与している。鹿角市が持つ豊富な地熱資源を活かし、関連産業への波及効果や観光資源としての活用など、多角的な地域振興策と連携できる可能性がある。 このように鹿角市の実情にあった再生可能エネルギー政策を提案したいが、どのように考えるか。また、市は風力発電による雇用効果や地域経済への貢献度をどのように評価されているか伺う。	
2 飼い主のいない猫について					
(1) 苦情件数・相談内容やその対応について				① 飼い主のいない猫について、市民からの苦情件数とその相談内容はどのようなものか。また、市がどのような対応をしているのか伺う。	
(2) 保護活動をしている方の現状の把握について				① 保護活動をしている方の人数や不妊去勢手術の猫の頭数など、市は現状の把握をしているか伺う。	

令和7年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	3	質問者	保田 直美	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(3) 保護活動している方の協力体制について				① 市内で保護活動している方々との協力体制は整っているのか。まだ協力体制は整っていないのであれば、そういった体制をつくっていくことは重要だと思うが、その点について市の考えを伺う。	
(4) 多頭飼育の対応について				① 多頭飼育崩壊の危険性がある場合、もしくは、実際に発生した場合、行政としてどのような対応ができるのか伺う。	
(5) 多頭飼育の防止について				① この多頭飼育の問題を防止するには様々な活動があるが、例えば一定数以上飼う場合は市で登録制にするなど、まずは市で把握することが重要ではないかと思うが、この点についてはどのように考えるか伺う。	
(6) 遺棄防止と室内飼育の推奨について				① 猫の遺棄は今や犯罪であるが、まだ知らない方がいるのも現状である。 市では遺棄防止や室内飼育についての推奨を、どのように広報をしているのか。また、多くの市民の目に留まり、少しでも意識を向けていただけるようチラシ配布なども効果的であると考えているが、市の考えを伺う。	

令和7年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	4	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	熊・有害鳥獣対策について				
	(1)	市街地での発砲対応マニュアルについて	① 本市における「市街地での発砲対応マニュアル」は整備されているのか。また、発砲判断の責任所在、市長の決裁フローは明文化されているのか伺う。		
	(2)	ブナの実の凶作と特別警戒対策について	① 今年のブナの結実状況について、市としてどのように把握しているのか。また、餌不足による市街地出没増加を見据え、特別警戒体制を敷く考えはあるのか伺う。		
	(3)	耕作放棄地（ソバ畑）への熊出没と制度の緩和について	① 住宅地に隣接するソバ畑に熊が出没し、近隣住民から強い不安の声が上がっている。しかし、この土地の所有者は近隣に居住しておらず、実際に出没を確認していない。その一方で、被害を受けているのは近隣住民である。現行制度では、電気柵設置補助は農家に限られており、非農家の近隣住民は対象外である。さらに、他人の土地に勝手に設置することもできず、結果として危険が放置されてしまう状況である。 こうしたケースに対して、市としてどのように対応し、地権者同意を前提とした代行設置や、非農家でも申請できる特例制度、または刈払いなどの発生源対策を講じる考えはあるのか伺う。		
2	特殊詐欺やネット詐欺の対応について				
	(1)	被害件数・手口の傾向把握について	① 令和7年度における本市の詐欺被害件数、被害額、また手口の傾向を市はどのように把握しているのか伺う。		
	(2)	即時的な注意喚起体制について	① 事件発生時に、市民へ迅速に注意喚起を行う体制は整備されているのか。また、従来の防災無線や広報紙に加え、市民メール、LINE公式アカウント、SNSなど、即時性の高い媒体をどのように活用しているのか伺う。		
	(3)	世代別に適した啓発活動について	① 高齢者だけでなく若者や現役世代も被害に遭う中で、世代別に適した啓発活動や教育的取り組みをどのように展開していくのか。また、学校やPTA、地域団体、企業などとの連携はどう考えているのか伺う。		

令和7年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	4	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
3	(4)	警察との情報共有体制について	① 鹿角警察署との間で、被害情報をリアルタイムに共有する体制はどのようなになっているのか。また、協定やルール整備はなされているのか伺う。		
	(1)	仮設トイレ備蓄と即応体制について	① 本市が現在備蓄している仮設トイレ・簡易トイレの数と、避難所収容人数との関係はどうなっているか伺う。 また、道路寸断時に搬入できない場合、市内で即応できる体制はあるのか伺う。		
	(2)	市役所庁舎の自家発電設備について	① 市役所庁舎の自家発電設備について、定期的な稼働テストは実施されているのか伺う。 また、燃料は何日分備蓄し、補給ルートは確保されているのか伺う。		
4	(3)	庁舎内火災への備えについて	① 市役所庁舎内での火災発生を想定した消火訓練は実施されているのか伺う。 また、消火栓やホースの点検状況、そして職員が実際に初期消火できる体制は整っているのか伺う。		
	(1)	財政効果と撤去保証について	① 発電事業による固定資産税収入の見込み額、地域経済への波及効果、さらに将来の撤去費用保証について、市はどのように試算・評価しているのか伺う。		
	(2)	基本姿勢と評価基準について	① 風力発電事業に対して、本市はどのような基本姿勢をもって臨むのか。また、再生可能エネルギー推進と文化財・景観保全の両立について、評価基準はあるのか伺う。		
	(3)	住民合意形成について	① 住民理解を得るために、事業者説明会以外に市がどのような情報提供や合意形成の仕組みを考えているのか伺う。		
	(4)	文化財との整合性について	① 大湯環状列石との整合性について、市は文化庁や県とどのような協議を進めているのか。また、景観シミュレーションや影響調査は行っているのか伺う。		

令和7年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位		5	質問者	奈良 明日香	質問所要時間	30 分	No.1
質 問 事 項					質 問 要 旨		
1 医療体制に関して					① 令和7年度より小児科医療の縮小に伴い、入院や緊急時の対応が大館市立総合病院となっている。3月の市民説明会では、市民から、通院や入院を余儀なくされる市民に対する支援や補助についての質問もあった。 鹿角市として、現状で何らかの支援策や補助制度はあるのか。また、現時点でそうした制度がない場合、今後、設ける考えがあるのか伺う。		
2 産婦人科問題に関して					① 6月議会の会期中、市長は報道機関に対し「鹿角での分娩可能な産婦人科の復活は目指さない」と表明されている。一般質問の答弁でも、財政的にも医療体制的にも、現状での復活は困難との認識を示されたが、一方で、市民からは依然として不安の声が聞かれるのも事実である。 医療ビジョンの優先順位があることは承知しているが、こうした市民の不安の声に対し、どのように向き合うのか。また、そもそも市民が抱く不安について、どのように考えているか伺う。		
3 鹿角市人口ビジョンに関して							
(1) 鹿角市人口ビジョンの方向性について					① 先日改訂された人口ビジョンには、自然減よりも社会減が鹿角市の人口減少の大きな課題であると記載されている。その対策として、「若者が帰ってきたいと思えるまち」と「安心して子どもを持つことができるまち」という2つの方向性が示された。 これらの方針について、具体的にどのような政策を検討されているのか、また、その展望について伺う。		
(2) こどもまんなか応援サポーター宣言について					① 人口減少対策の鍵として、子育て世帯が安心して暮らせるまちづくりが重要であると推察する。行政視察先の岡山県奈義町では、鹿角市と同様に分娩可能な産婦人科がない自治体であるが、こども家庭庁が推進する「こどもまんなか応援サポーター宣言」を掲げ、官民一体となって子育て支援や安心して子供を産める環境づくりを進めている。この宣言は、議会で議決することで行政と市民の認識を共有する役割も果たしている。 鹿角市として、このような宣言を行い、行政と市民が一体となった子育て支援を進める考えはないか。		

令和7年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	5	質問者	奈良 明日香	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(3) 少子化要因見える化ツールについて			① 少子化・人口減少対策には、現状の分析が不可欠である。岡山県では、県全体で「少子化要因見える化ツール」という取り組みを行っている。これは、各市町村の統計や県民意識調査のデータを集計・分析して地域の実情把握を支援するとともに、施策効果による出生率等の変化をシミュレーションすることができるものである。各市町村の子育て環境の強みや課題を客観的に把握するとともに、少子化の要因を可視化することで、今後の対策に役立てることができる。同様の取り組みは宮崎県や京都府でも行われており、広域での連携が不可欠な少子化問題において非常に有効と考える。 そこで、鹿角市から県に対し、このような取り組みを進めるよう提言することはできないか伺う。		
4 教育現場に関して					
(1) A L T（外国語指導助手）について			① 岡山県奈義町では、保育園から中学校まで各学年に1人のA L Tを配置し、子供たちの語学力向上に加え、国際的な視野やコミュニケーション能力の育成に力を入れている。また、町民向けの英会話教室も開催されており、町全体で英語教育を推進している。こうした魅力ある教育環境の整備は、子育て世代のUターンや移住につながると考える。 鹿角市の現在の英語教育の現状について伺う。また、鹿角市でも保育園及び小中学校各学年へのA L T配置や、市民向け英会話教室の開催などの取り組みを行うことは可能か併せて伺う。		
(2) 学校施設（体育館）の冷房設備について			① 今年の夏は市内でも練習中に熱中症の疑いで搬送される児童が出るなど、気温上昇は深刻な問題である。また、学校体育館は災害時の避難所としても使用されるため、空調設備の整備は必要不可欠と考える。 文部科学省のホームページには、公立学校施設の空調整備に対する支援がある旨が記載されているが、こうした国の支援などを活用し、体育館へ冷房設備を導入する考えはあるか。また、今後夏の気温上昇に対し、どのように対策を講じていくか、考えを伺う。		

令和7年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

No.1					
順位	6	質問者	安保 真希	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 上沼地区における風力発電建設計画について (1) 建設予定地周辺住民への説明状況について (2) 市民の声を受け止める機会の創出について				① 二つの事業者による周辺地域への説明会開催状況について、市はどのように把握しているか。また、把握している場合、これまでどの地区で何回開催されているか伺う。 ① 市民の声を幅広く受け止める機会として、市民アンケートや公式LINEを活用し、市民の声を長期間受け付ける「意見箱」を設置してはいかがかと思うが、市の考えを伺う。	
2 米代川の鮎資源を活用した地域経済の振興について (1) 米代川の鮎のPRについて (2) 地域住民と来訪者との共存について				① 米代川の鮎は今夏十数年ぶりの大豊漁となり、遊漁券収入や飲食、宿泊など幅広い経済効果を生んでいる。今年は特別な豊漁であるが、例年も多くの釣り客が訪れ、鮎の名川としての可能性は高い。しかし、漁獲された鮎の多くは市外・県外に流通し、地元での認知や食文化の広がりには十分でないとする。米代川の鮎を観光・食文化と結びつけた地域振興にどう生かすのか、市の考えを伺う。 ① 道の駅や花輪地区の河川公園では、釣り客がテントを張り長期間滞在する状況が見られ、地域住民から厳しい目で見られることもあったと伺っている。こうした状況に対しては、ゴミの分別や駐車マナーなどを徹底し、地域との共存を図る取り組みが必要である。 このことについて、来年度以降、釣り客の受け入れ環境整備やマナー向上に向け、関係組合等と連携した対応をどのように進めていくのか、市の見解を伺う。	
3 鹿角市内の朝市（市日）の賑わい創出について (1) 飲食店ブース設置の可能性について				① 仮設店舗における飲食店営業等の取り扱いについては秋田県食品衛生法施行条例及び関係要綱により規定されているが、これによると、市日での仮設飲食店の営業は認められないことから、出店可能なのは農作物などの物販だけということとなる。 市日の飲食ブース設置による観光客や若年層の呼び込みの可能性について市の見解を問う。 併せて、県条例の運用について、鹿角市から秋田県へ柔軟な対応や見直しを働きかける考えはないか伺う。	

令和 7 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	7	質問者	赤坂 勲	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 産業振興施策について					
(1) 各種大会等における飲食店の出店について				① 駅伝やスポーツ大会を多く開催する本市において、出場選手や関係者の宿泊等による経済効果は大きいものの、まだまだ取りこぼしていると感じる。 そこで、市内事業者等が各種イベント等に出店しやすくなるよう、キッチンカー等の購入に関する補助などを行う考えはないか伺う。	
(2) 花輪定期市場の活用策について				① 平成 22 年のリニューアル以降、テナント利用がほとんどなされていない定期市場について、特に給排水、シャッター設備のある部分についての利用について、市の想定としては飲食店が常設される想定での設計であったか伺う。	
(3) 駆除した野生鳥獣の利活用施策について					
ア 野生鳥獣の解体に伴う廃棄物に関する基本的な考え方について				① 過去最多ペースで捕獲されている熊について、市内では食肉加工を行い、販売まで行う施設がなく、かつて民間による施設整備の検討を行なった際、解体に伴う排水処理を公共下水道へ接続することが許可されず、頓挫したと伺っている。 解体に伴う汚水の公共下水道への放流、並びに解体残渣のごみ処理場での焼却について施設を管理する市の基本的な考えを伺う。	
イ 食品衛生法基準を満たす施設整備について				① ジビエの食肉加工処理が可能なレベルの食品衛生法基準対応施設の整備を行う、または民間が行う施設整備に対する補助を行う考えがないか伺う。	
2 都市農村交流事業について					
(1) 都市農村交流事業の実施方法について				① 葛飾区立よつぎ小学校との都市農村交流事業に市が携わって 40 年が経ち、1,000 人を超える児童を受け入れてきた。かつてはホストファミリーそれぞれの家庭で受け入れる形式から、コロナ禍を経て宿泊をホテル・旅館等へ変更した形式で実施されている。 今後の実施方法も従前の方式ではなく、集合宿泊方式で行う予定なのか伺う。	

令和 7 年第 6 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	7	質問者	赤坂 勲	質問所要時間	30 分	No.2
質 問 事 項				質 問 要 旨		
3 鹿角市ホームページ・SNSの運用について (1) 鹿角市ホームページの検索しにくさの解消について				① 鹿角市のホームページは必要な情報を検索する機能が非常に弱く、旧ホームページの情報を参照しようとしても見つからないことが多いと感じる。 自治体ホームページの役割は、災害時などの緊急時のみならず、情報という重要な市民サービスを提供する公共インフラである。専門部署の創設と職員配置が必要と考えるが、市の考えを伺う。		
(2) 公式SNSの運用見直しについて				① ホームページ同様に重要な情報源となるSNSだが、市の公式Instagram「鹿角いいね」は今年度の投稿は2件のみで、運用が積極的とは言えない現状である。 公式SNS運用を今後どのように位置づけるか、市の考えを伺う。		
4 農業経営の安定化対策について (1) 来年度の経営所得安定対策の見通しについて				① 米価の急騰により、令和7年産米（あきたこまち）の概算金は過去最高の60キログラムあたり3万円の状況である。この状況が続くとなれば新規需要米の作付けは見込めないと考えるが、来年度の水田活用の直接支払交付金について、来年度に向けて国に対する増額要望や、産地交付金の上乗せを考えているのか伺う。		

令和7年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	8	質問者	松村 託磨	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1 移住・関係人口施策の現状と次の展開について					
(1) 鹿角市の移住・関係人口施策を「還流」と「持続」の視点で整理し直す考えについて			① 人口減少や若年層の流出が続く中、移住者数や交流人口を増やすだけでなく、一度地域を離れた人が戻る「還流」と、戻らずとも関与を続ける「持続」の視点で施策を再整理する必要があると考える。対象や成果指標を明確化して計画に反映する考えについて伺う。		
(2) 仕事体験プログラムを地域おこし協力隊制度と組み合わせて運用する可能性について			① 自主財源 200 万円で運営している仕事体験プログラムは一定の成果を上げているが、規模拡大には財政的課題がある。他自治体の事例を参考に、地域おこし協力隊制度を組み合わせて運用することで循環を広げる仕組みへの進化が可能ではないかと考えるが、市の検討状況を伺う。		
(3) 第2世代交付金を「還流」と「持続」の仕組みづくりに活かす考えについて			① これまで「鹿角家」「鹿角家U25」など交付金を活用した取り組みは評価できるが、現状は「入口施策」に偏った印象を受ける。「還流」と「持続」を育てる戦略投資として位置づける必要があると考えるが、市の方針を伺う。		
(4) 人材不足分野と若年女性流出への対策に「還流」と「持続」を組み込む考えについて			① 福祉・観光・建設・製造業での人材不足や若年女性流出は深刻である。移住者の入口施策にとどまらず、一度離れた人材が戻る仕組み（還流）や、市外から関与を続けられる仕組み（持続）を組み込むべきと考えるが、市の見解を伺う。		